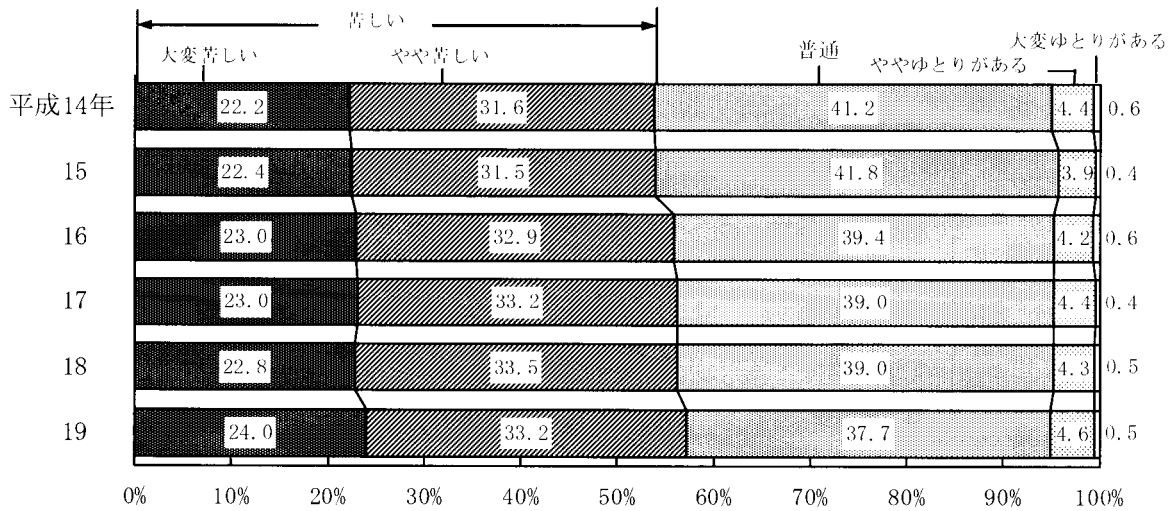


6 生活意識の状況

生活意識別世帯数の構成割合をみると、「苦しい」（「大変苦しい」と「やや苦しい」）が 57.2 %、「普通」が 37.7%となっている。

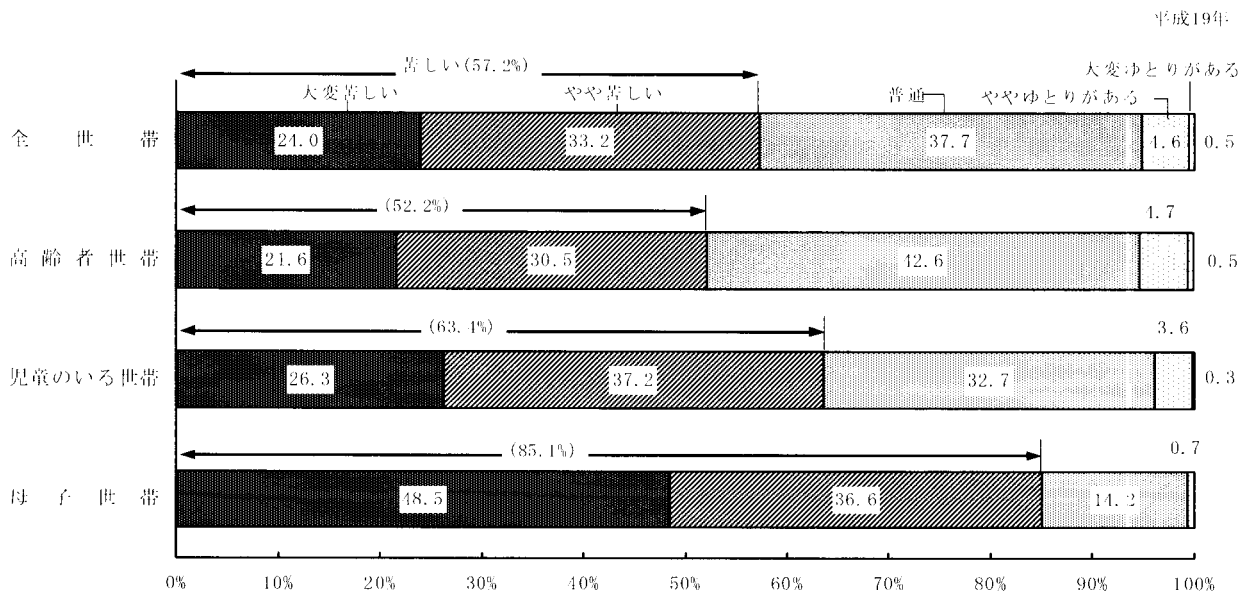
年次推移をみると、「苦しい」と答えた世帯の割合は、近年、増加している。（図11）

図11 生活意識別世帯数の構成割合の年次推移



特定の世帯の生活意識別世帯数の構成割合をみると、「苦しい」と答えた世帯の割合は、「母子世帯」で 85.1%と最も高くなっている。（図12）

図12 全世帯及び特定の世帯別にみた生活意識別世帯数の構成割合



Ⅲ 世帯員の健康状況

1 自覚症状の状況

病気やけが等で自覚症状のある者（有訴者）は人口千人当たり327.6人（この割合を「有訴者率」という。）となっている。

有訴者率（人口千対）を性別にみると、男289.6、女363.2で女が高くなっている。

年齢階級別にみると、「5～14歳」の206.6が最も低く、年齢階級が高くなるに従って上昇し、「75～84歳」では541.8となっている。（表11）

症状別にみると、男では「腰痛」での有訴者率が最も高く、次いで「肩こり」、「せきやたんが出る」の順、女では「肩こり」が最も高く、次いで「腰痛」「手足の関節が痛む」の順となっている。（図13）

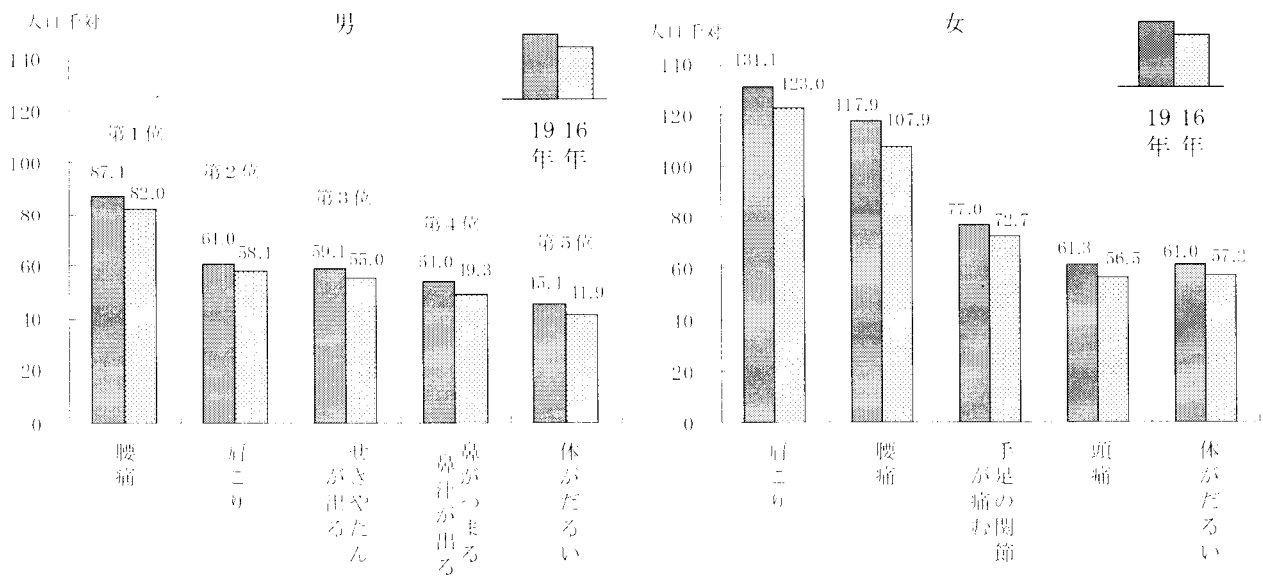
表11 性・年齢階級別にみた有訴者率（人口千対）

年齢階級	平成19年			平成16年		
	総数	男	女	総数	男	女
総数	327.6	289.6	363.2	317.1	281.4	350.5
0～4歳	271.5	277.9	264.8	267.4	277.3	257.1
5～14	206.6	215.9	196.9	201.2	206.8	195.3
15～24	207.2	177.4	237.9	203.4	171.4	236.1
25～34	254.9	207.3	301.0	246.0	201.0	289.1
35～44	286.1	242.0	328.5	272.8	235.6	308.7
45～54	310.4	259.2	360.0	304.2	262.0	345.6
55～64	369.6	329.4	408.1	367.3	330.7	401.9
65～74	463.3	431.0	492.3	462.1	427.0	493.1
75～84	541.8	513.5	562.3	537.1	514.0	552.9
85歳以上	526.0	531.6	523.4	529.4	538.4	525.3
(再掲)						
65歳以上	496.1	464.8	520.6	493.1	461.3	517.4
70歳以上	520.4	494.4	539.5	518.0	489.7	538.0
75歳以上	538.2	516.8	552.3	535.4	518.2	546.3

注：1）有訴者には入院者は含まないが、分母となる世帯人員数には入院者を含む。

2）「総数」には、年齢不詳を含む。

図13 性別にみた有訴者率の上位5症状（複数回答）



注：有訴者には入院者は含まないが、分母となる世帯人員には入院者を含む。

2 通院者の状況

傷病で通院している者（通院者）は人口千人当たり333.7人（この割合を「通院者率」という。）となっている。

通院者率（人口千対）を性別にみると、男311.3、女354.7で女が高くなっている。

年齢階級別にみると、「15～24歳」の119.5が最も低く、年齢階級が高くなるに従って上昇し、「75～84歳」で692.6となっている。（表12）

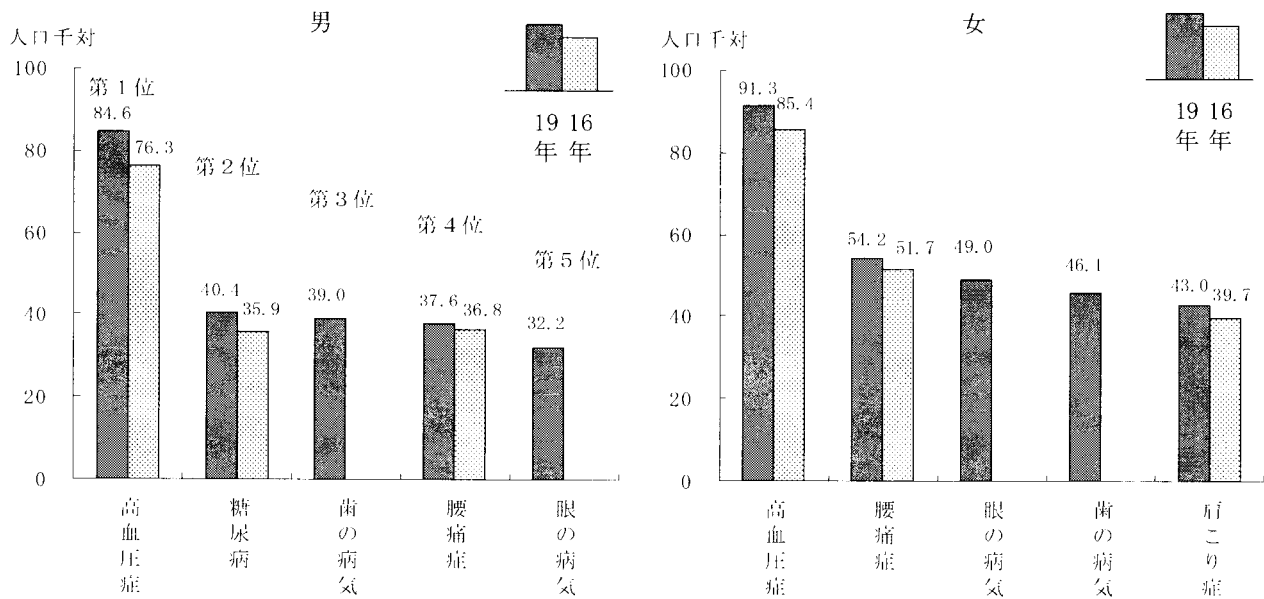
傷病別にみると、男女とも「高血圧症」での通院者率が最も高くなっている。（図14）

表12 性・年齢階級別にみた通院者率（人口千対）

年齢階級	平成19年			平成16年		
	総数	男	女	総数	男	女
総数	333.7	311.3	354.7	325.4	302.7	346.7
0～4歳	172.1	182.7	160.9	183.0	202.1	163.0
5～14	170.6	184.3	156.3	179.9	191.7	167.6
15～24	119.5	107.8	131.6	123.0	107.4	139.0
25～34	168.3	134.8	200.7	170.7	134.7	205.2
35～44	213.3	192.8	233.1	206.7	189.4	223.4
45～54	307.3	287.8	326.2	303.0	287.6	318.0
55～64	449.7	431.4	467.3	448.5	430.6	465.4
65～74	608.8	598.9	617.7	612.0	595.8	626.3
75～84	692.6	684.4	698.4	688.3	685.0	690.5
85歳以上	617.3	638.3	607.7	618.3	635.4	610.5
(再掲)						
65歳以上	638.0	629.4	644.7	637.9	626.2	646.9
70歳以上	665.7	662.0	668.4	666.3	658.5	671.9
75歳以上	675.4	676.1	674.9	673.3	676.5	671.3

注：1）通院者には入院者は含まないが、分母となる世帯人員数には入院者を含む。
2）「総数」には、年齢不詳を含む。

図14 性別にみた通院者率の上位5傷病（複数回答）



注：1）通院者には入院者を含むが、分母となる世帯人員数には入院者を含む。
2）「歯の病気」「眼の病気」は調査項目が変更されているため、平成16年の数値は掲載していない。

3 日常生活への影響

6歳以上の者（入院者は除く。）について、健康上の問題で日常生活への影響がある者は人口千人当たり106.7人（この割合を「日常生活に影響のある者率」という。）となっている。

日常生活に影響のある者率（6歳以上人口千対）を性別にみると、男95.6、女117.0となっている。

影響の内容をみると、「仕事・家事・学業」46.0、「日常生活動作」37.2、「運動」33.9、「外出」33.7となっており、男女ともに「仕事・家事・学業」が最も高くなっている。（表13）

表13 性・年齢階級別にみた日常生活への影響がある者（複数回答）率（6歳以上人口千対）
平成19年

性 年齢階級	日常生活への影響がある者						日常生活への影響がある者 (平成16年)
	日常生活動作	外出	仕事・家事・学業	運動	その他		
総数	106.7	37.2	33.7	46.0	33.9	15.4	110.2
6～14歳	37.0	10.1	4.3	11.0	22.8	5.4	38.5
15～24	44.5	11.9	6.9	18.7	18.8	7.1	47.0
25～34	53.7	13.8	12.0	29.8	15.3	9.1	54.8
35～44	67.0	16.8	13.0	36.7	21.1	11.7	68.2
45～54	88.3	22.5	16.5	47.1	28.2	13.8	92.9
55～64	109.1	29.8	25.9	49.2	37.6	18.7	116.0
65～74	165.2	57.4	56.3	63.1	54.5	22.9	190.1
75～84	277.5	122.1	133.3	107.1	72.7	31.5	296.8
85歳以上 (再掲)	395.2	258.1	213.0	128.4	90.5	40.2	416.8
65歳以上	226.2	99.3	98.0	84.5	64.2	27.5	246.1
70歳以上	262.0	121.9	121.7	97.2	70.5	30.1	281.4
75歳以上	304.3	153.1	151.5	112.0	76.8	33.5	322.5
男	95.6	32.1	26.0	36.2	34.2	14.4	99.3
6～14歳	40.3	10.6	5.2	11.6	25.4	5.5	41.9
15～24	42.5	11.4	5.9	14.9	21.8	6.8	45.5
25～34	47.2	12.1	8.1	22.1	14.8	8.4	47.6
35～44	58.2	14.6	9.3	30.5	20.1	9.8	62.2
45～54	77.9	20.4	12.1	38.1	26.2	13.0	83.8
55～64	106.0	29.3	21.7	44.5	38.6	18.6	112.4
65～74	162.9	56.6	52.1	51.1	60.6	24.2	185.4
75～84	259.5	113.3	112.9	79.8	78.6	30.2	280.1
85歳以上 (再掲)	375.1	234.9	190.7	104.2	88.4	38.4	399.8
65歳以上	209.2	87.6	81.6	64.2	68.4	27.2	228.8
70歳以上	242.9	107.0	101.5	72.9	76.4	30.0	258.8
75歳以上	280.4	135.3	127.0	84.2	80.4	31.7	300.7
女	117.0	42.0	40.8	55.2	33.6	16.3	120.3
6～14歳	33.5	9.5	3.4	10.4	20.0	5.4	35.0
15～24	46.4	12.4	7.9	22.6	15.8	7.4	48.6
25～34	60.0	15.4	15.8	37.3	15.8	9.7	61.6
35～44	75.5	18.9	16.6	42.6	22.0	13.5	74.0
45～54	98.5	24.6	20.7	55.8	30.2	14.6	101.9
55～64	112.0	30.2	30.0	53.7	36.5	18.9	119.3
65～74	167.4	58.2	60.1	73.9	48.9	21.7	194.3
75～84	290.5	128.5	148.0	126.9	68.4	32.4	308.3
85歳以上 (再掲)	404.3	268.7	223.2	139.5	91.5	41.0	424.6
65歳以上	239.4	108.6	110.8	100.5	61.0	27.8	259.3
70歳以上	275.9	132.8	136.4	114.9	66.2	30.1	297.3
75歳以上	320.0	164.8	167.5	130.2	74.4	34.6	336.2

注：日常生活への影響がある者には入院者は含まないが、分母となる世帯人員数には、入院者を含む。

4 健康状態

6歳以上の者（入院者は除く。）について、自覚症状の有無、通院の有無、日常生活影響の有無による健康状態の構成割合を性別にみると、「自覚症状・通院・生活影響ともなし」の者は男49.6%、女42.1%となっており、「自覚症状・通院・生活影響ともあり」の者は男6.7%、女8.6%となっている。（表14、図15）

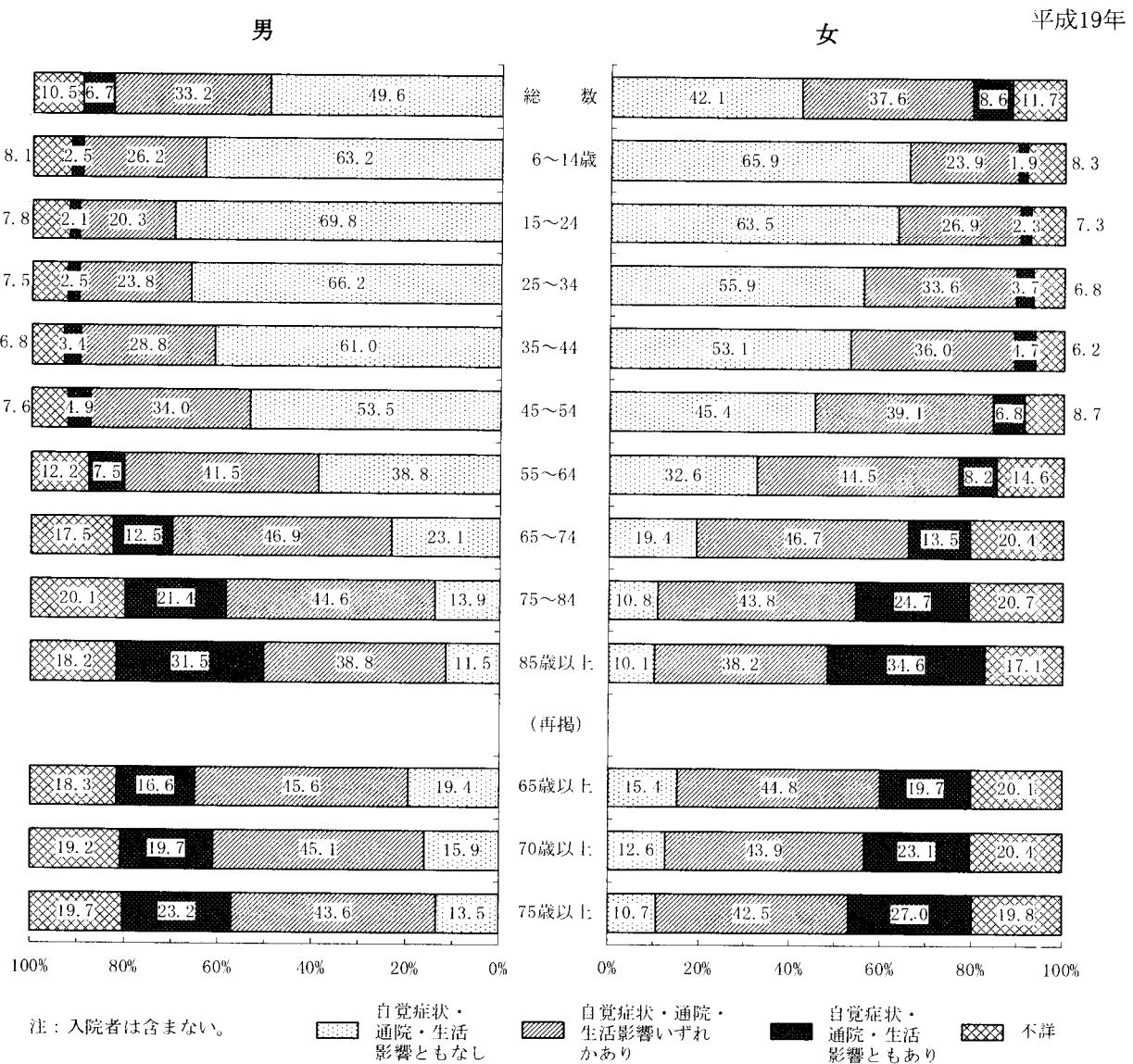
表14 性別にみた健康状態の構成割合（6歳以上）

(単位：%)		平成19年		
性	総数	自覚症状・通院・生活影響ともなし	自覚症状・通院・生活影響いずれかあり	自覚症状・通院・生活影響ともあり
総数	100.0	45.7	35.5	7.7
男	100.0	49.6	33.2	6.7
女	100.0	42.1	37.6	8.6

注：1) 入院者は含まない。

2) 「総数」には、健康状態不詳を含む。

図15 性・年齢階級別にみた健康状態の構成割合



注：入院者は含まない。

自覚症状・通院・生活影響ともなし

自覚症状・通院・生活影響いずれかあり

自覚症状・通院・生活影響ともあり

不詳

5 健康意識

6歳以上の者（入院者は除く。）について、健康意識の構成割合をみると、自分の健康を「よいと思っている者」（「よい」と「まあよい」をあわせた者）は35.9%となっており、「ふつう」43.3%、「あまりよくない」11.2%、「よくない」1.8%となっている。

自分の健康を「よいと思っている者」を性別にみると、男37.8%、女34.0%となっている。（表15）

表15 性・年齢階級別にみた健康意識の構成割合

性 年齢階級	総 数	よ い と 思 っ て い る 者		ふ つ う	あ ま り よ く な い	よ く な い	不 詳	平成19年
		よ い	ま あ よ い					
総 数	100.0	35.9	19.9	16.0	43.3	11.2	1.8	7.9
6 ～ 14 歳	100.0	66.0	46.7	19.4	26.2	2.4	0.3	5.1
15 ～ 24	100.0	47.6	28.4	19.2	41.0	5.6	0.7	5.1
25 ～ 34	100.0	43.8	25.0	18.8	42.4	7.7	1.0	5.1
35 ～ 44	100.0	40.2	21.4	18.7	44.8	9.5	1.1	4.4
45 ～ 54	100.0	31.5	15.8	15.7	50.2	11.1	1.3	5.9
55 ～ 64	100.0	26.3	12.7	13.6	49.4	12.3	1.7	10.2
65 ～ 74	100.0	22.7	10.2	12.5	44.7	16.0	2.9	13.6
75 ～ 84	100.0	17.0	6.6	10.4	39.6	23.9	5.4	14.1
85歳以上 (再 掲)	100.0	13.7	5.3	8.4	37.0	28.0	9.1	12.2
65歳以上	100.0	20.0	8.6	11.4	42.3	19.8	4.3	13.6
70歳以上	100.0	18.1	7.4	10.7	40.6	22.4	5.2	13.7
75歳以上	100.0	16.3	6.3	10.0	39.1	24.8	6.2	13.7
男	100.0	37.8	21.5	16.3	42.8	9.9	1.8	7.6
6 ～ 14 歳	100.0	66.2	46.6	19.5	26.1	2.4	0.3	5.1
15 ～ 24	100.0	49.8	30.5	19.3	39.1	4.9	0.7	5.5
25 ～ 34	100.0	45.1	26.2	18.9	41.8	6.6	1.0	5.5
35 ～ 44	100.0	40.7	22.5	18.2	44.8	8.5	1.1	4.9
45 ～ 54	100.0	33.4	17.3	16.1	49.9	9.7	1.3	5.7
55 ～ 64	100.0	27.8	13.8	14.0	49.3	11.6	1.9	9.4
65 ～ 74	100.0	24.7	11.5	13.2	44.4	15.1	3.1	12.7
75 ～ 84	100.0	18.4	7.6	10.8	39.4	22.2	5.8	14.1
85歳以上 (再 掲)	100.0	14.9	5.6	9.3	35.3	27.8	9.2	12.8
65歳以上	100.0	22.1	9.9	12.2	42.2	18.2	4.4	13.2
70歳以上	100.0	19.9	8.5	11.5	40.4	20.9	5.2	13.5
75歳以上	100.0	17.8	7.3	10.5	38.7	23.2	6.4	13.9
女	100.0	34.0	18.4	15.6	43.7	12.4	1.8	8.1
6 ～ 14 歳	100.0	65.9	46.7	19.2	26.3	2.4	0.2	5.1
15 ～ 24	100.0	45.3	26.3	19.0	43.0	6.4	0.6	4.7
25 ～ 34	100.0	42.7	23.9	18.7	43.0	8.7	0.9	4.7
35 ～ 44	100.0	39.7	20.4	19.3	44.9	10.4	1.1	4.0
45 ～ 54	100.0	29.6	14.4	15.3	50.5	12.5	1.2	6.1
55 ～ 64	100.0	25.0	11.6	13.3	49.4	13.0	1.6	11.0
65 ～ 74	100.0	20.9	9.1	11.8	45.0	16.9	2.8	14.4
75 ～ 84	100.0	16.0	5.8	10.2	39.7	25.1	5.2	14.0
85歳以上 (再 掲)	100.0	13.1	5.1	7.9	37.8	28.2	9.1	11.8
65歳以上	100.0	18.4	7.5	10.8	42.4	21.0	4.3	14.0
70歳以上	100.0	16.7	6.5	10.2	40.8	23.4	5.2	13.9
75歳以上	100.0	15.3	5.7	9.7	39.3	25.8	6.1	13.5

注：入院者は含まない

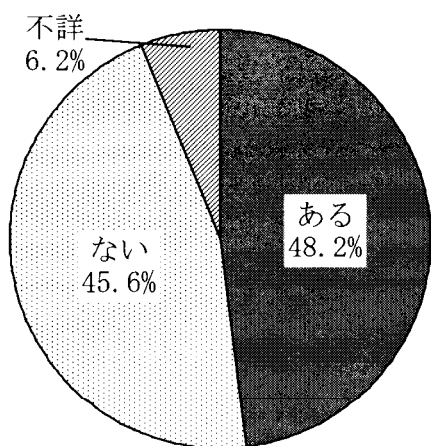
6 悩みやストレスの状況

12歳以上の者（入院者は除く。）について、日常生活での悩みやストレスの有無別構成割合をみると「ある」48.2%、「ない」45.6%となっている。（図16）

悩みやストレスがある者を性別にみると、男43.8%、女52.2%で、年齢階級別にみると、男女ともに「35～44歳」が最も高く、年齢階級が高くなるに従ってその割合はおおむね低下傾向にある。（表16）

また、15歳以上の仕事のある者（入院者を除く。）について、性・職業別にみると、男では「販売従事者」「事務従事者」、女では「専門的・技術的職業従事者」「事務従事者」が高くなっており、すべての職業において女が男を上回っている。（図17）

図16 悩みやストレスの有無別構成割合（12歳以上）



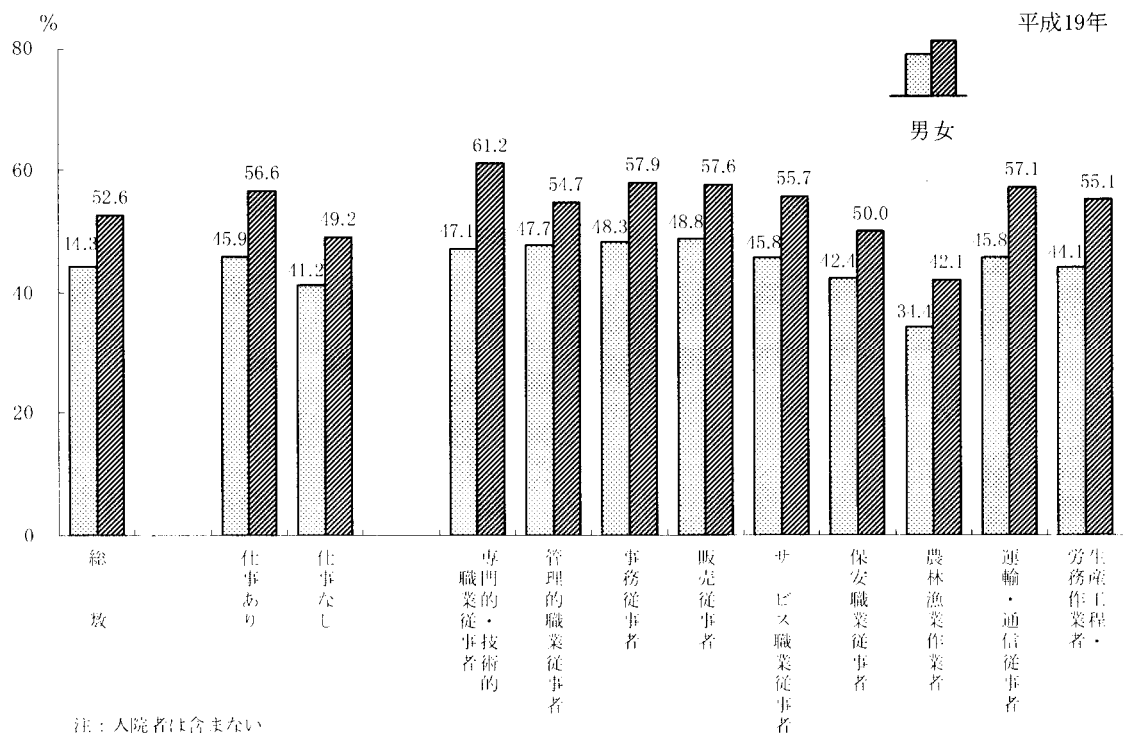
注：入院者は含まない。

表16 性・年齢階級別にみた悩みやストレスがある者の割合

年齢階級	総数	平成19年	
		男	女
総数	48.2	43.8	52.2
12～14歳	35.6	31.9	39.5
15～24歳	46.7	41.1	52.5
25～34歳	53.4	47.6	59.0
35～44歳	56.4	51.1	61.4
45～54歳	54.7	50.0	59.3
55～64歳	45.9	42.7	49.0
65～74歳	39.3	35.8	42.4
75～84歳	40.6	36.8	43.4
85歳以上 (再掲)	43.5	42.7	43.9
65歳以上	40.1	36.6	42.9
70歳以上	40.3	37.1	42.7
75歳以上	41.2	37.8	43.5

注：入院者は含まない。

図17 性・仕事の有無－職業別にみた悩みやストレスがある者の割合（15歳以上）



注：入院者は含まない

7 こころの状態

12歳以上の者（入院者は除く。）について過去1か月間のこころの状態（頻度別）の構成割合をみると、「いつも」の割合は各項目で0.9～2.5%となっている。

同様に性別にみると、6項目全てにおいて女の方が同じか高くなっている。（表17）

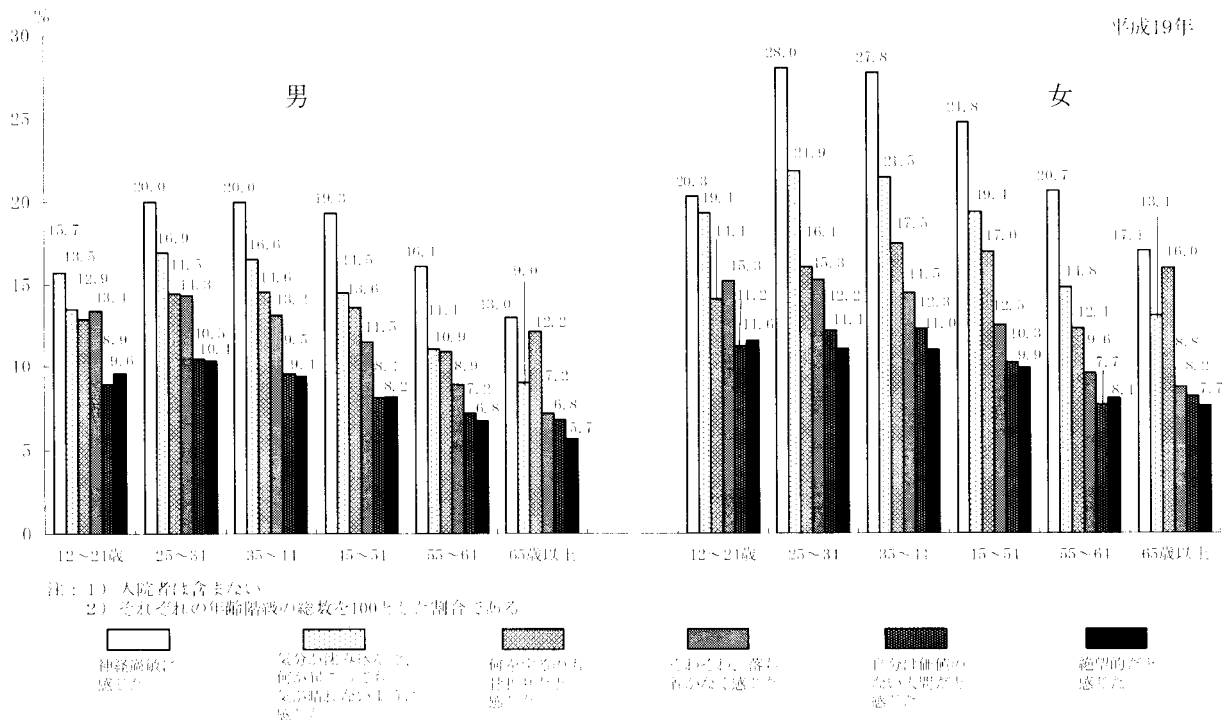
表17 性別にみたこころの状態（頻度別）の構成割合（12歳以上）

性 こころの状態（項目別）		総数	いつも	たいてい	ときどき	少しだけ	まったくない	不詳
総数								
	神経過敏に感じましたか	100.0	2.5	3.2	14.1	19.2	47.2	13.8
	絶望的だと感じましたか	100.0	1.1	1.3	6.4	12.6	63.9	14.7
	そわそわ、落ち着かなく感じましたか	100.0	0.9	1.6	9.1	17.9	55.8	14.7
	気分が沈み込んで、何が起っても気が晴れないように感じましたか	100.0	1.5	2.5	11.5	19.9	50.4	14.2
	何をやるのも骨折りだと感じましたか	100.0	1.7	2.5	10.1	20.1	51.3	14.0
	自分は価値のない人間だと感じましたか	100.0	1.4	1.3	6.5	13.2	63.3	14.3
男								
	神経過敏に感じましたか	100.0	2.0	2.7	12.4	18.0	51.3	13.7
	絶望的だと感じましたか	100.0	1.1	1.3	5.8	11.7	65.8	14.4
	そわそわ、落ち着かなく感じましたか	100.0	0.9	1.5	8.7	17.1	57.4	14.4
	気分が沈み込んで、何が起っても気が晴れないように感じましたか	100.0	1.3	2.2	9.8	18.5	54.2	14.1
	何をやるのも骨折りだと感じましたか	100.0	1.5	2.3	9.2	19.3	53.8	13.8
	自分は価値のない人間だと感じましたか	100.0	1.2	1.1	5.9	12.1	65.5	14.1
女								
	神経過敏に感じましたか	100.0	2.9	3.7	15.8	20.4	43.3	13.9
	絶望的だと感じましたか	100.0	1.2	1.4	7.0	13.4	62.1	14.9
	そわそわ、落ち着かなく感じましたか	100.0	0.9	1.7	9.5	18.5	54.4	15.0
	気分が沈み込んで、何が起っても気が晴れないように感じましたか	100.0	1.7	2.8	13.1	21.3	46.8	14.2
	何をやるのも骨折りだと感じましたか	100.0	1.8	2.8	10.9	21.4	48.9	14.2
	自分は価値のない人間だと感じましたか	100.0	1.5	1.5	7.0	14.1	61.4	14.5

注：入院者は含まない。

「いつも」「たいてい」「ときどき」を合わせた割合を性・年齢階級別にみると、女の年齢階級が「25～34歳」「35～44歳」の者が高くなっている。（図18）

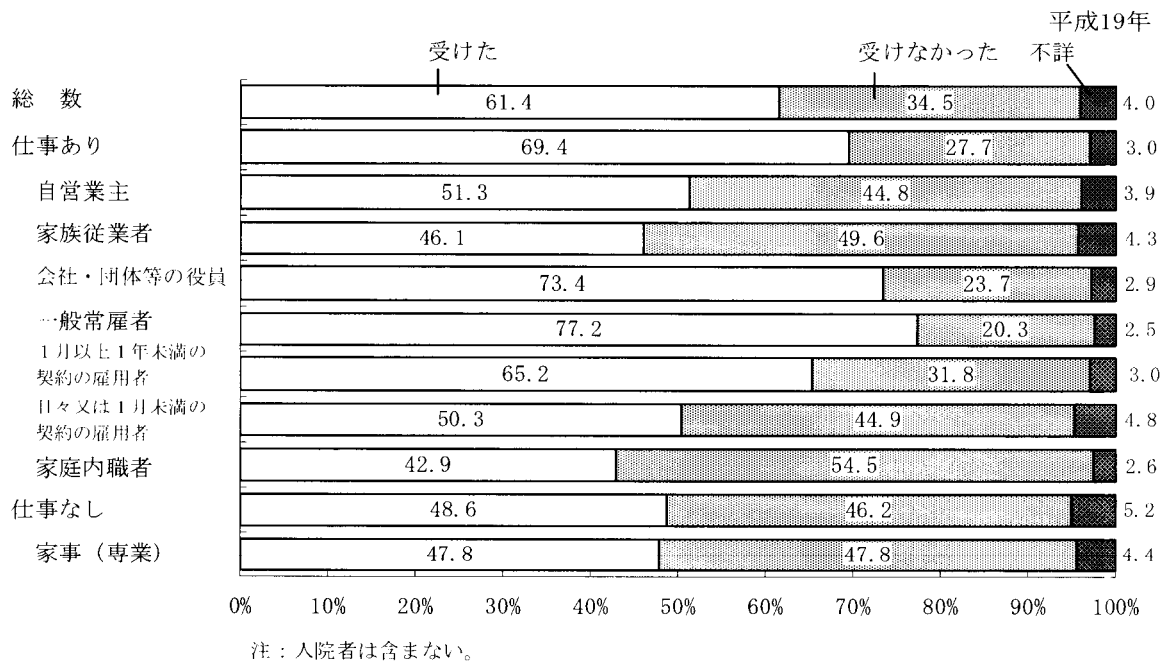
図18 性・年齢階級別にみた「いつも」「たいてい」「ときどき」の合計の割合



8 健診（健康診断や健康診査）や人間ドック等の受診状況

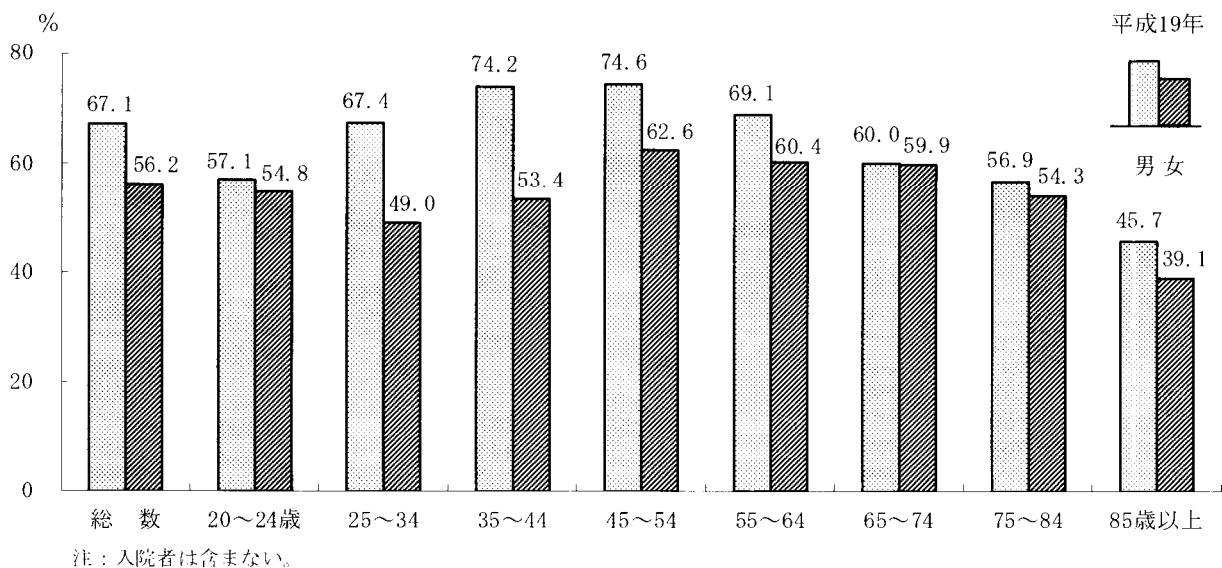
20歳以上の者（入院者は除く。）について、過去1年間の健診（健康診断や健康診査）や人間ドックの受診状況をみると、受けた者は61.4%、受けなかった者は34.5%となっている。仕事の有無別に健診や人間ドックを受けた者の割合をみると、「仕事あり」は69.4%、「仕事なし」は48.6%である。「仕事あり」の者をみると、「一般常雇者」が77.2%と最も高くなっている。（図19）

図19 仕事の有—勤めか自営か—無別にみた健診や人間ドックの受診状況の構成割合（20歳以上）



また、健診や人間ドックを受けた者を年齢階級別でみると、男女ともに「45～54歳」が最も高く、男は74.6%、女は62.6%となっている。（図20）

図20 性・年齢階級別にみた健診や人間ドックを受けた者の割合



健診や人間ドックを受けた者はどのような機会に受けたのかをみると、男は「職場における健診」が57.7%と最も多く、次いで「市区町村で行う健診」が22.1%、「人間ドック」が10.2%となっており、女は「市区町村で行う健診」が42.3%で最も多く、次いで「職場における健診」が37.5%、「人間ドック」が7.9%となっている。(表18)

表18 性別にみた健診や人間ドックの受診機会（複数回答）の割合（20歳以上）
（単位：%） 平成19年

性	総数	市区町村で行う健診	職場における健診	学校における健診	人間ドック	その他
総数	100.0	31.8	48.1	2.2	9.1	5.3
男	100.0	22.1	57.7	2.4	10.2	4.2
女	100.0	42.3	37.5	2.0	7.9	6.5

注：1) 入院者は含まない。
2) 健診や人間ドックを受けた者を100とした割合である。

また、健診や人間ドックを受けなかった者について、その理由別にみると、「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」が30.6%と多くなっている。(表19)

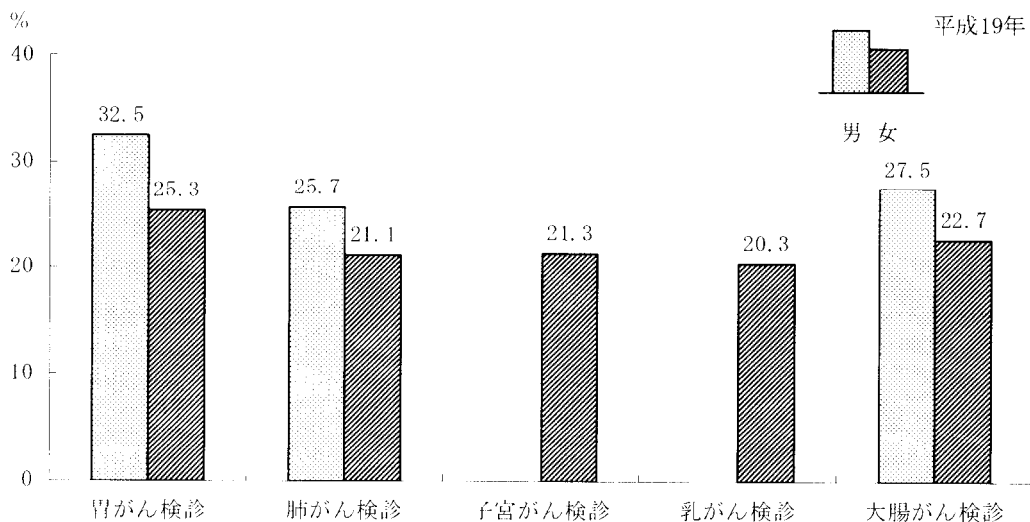
表19 健診や人間ドックを受けなかった理由（複数回答）の割合（20歳以上）
（単位：%） 平成19年

総数	心配な時はいつでも医療機関を受診できるから	時間がとれなかったから	めんどうだから	費用がかかるから	毎年受ける必要性を感じないから	健康状態に自信があり、必要性を感じないから	その時、医療機関に入通院していたから	知らなかったから	結果が不安なため、受けたくないから	検査等に不安があるから	場所が遠いから	その他
100.0	30.6	24.8	18.6	16.9	11.0	10.0	8.5	5.4	5.3	3.6	2.0	11.4

注：1) 入院者は含まない。
2) 健診や人間ドックを受けなかった者を100とした割合である。

40歳以上の者（子宮がん検診は20歳以上。入院者は除く。）について、過去1年間にがん検診を受診した者をみると、男女とも「胃がん検診」が最も高く、男で32.5%、女で25.3%となっている。(図21)

図21 性別にみたがん検診（複数回答）を受診した者の割合



注：1) 入院者は含まない。
2) 子宮がん検診は20歳以上、その他のがん検診は40歳以上を対象としている。

IV 介護の状況

1 要介護者等のいる世帯の状況

介護保険法の要支援又は要介護と認定された者（以下「要介護者等」という。）のいる世帯を世帯構造別にみると、「核家族世帯」が32.7%で最も多く、次いで「単独世帯」が24.0%となっている。

世帯構造別に要介護度の状況を見ると、「単独世帯」では要介護度の低い者のいる世帯の割合が多く、「三世帯世帯」では、他の世帯構造に比べて要介護度の高い者のいる世帯の割合が高くなっている。（表20）

表20 要介護者等のいる世帯の世帯構造別にみた要介護度の構成割合

（単位：％）

平成19年

要介護度	総数	単独世帯	核家族世帯	(再掲) 夫婦のみの 世帯	三世帯世帯	その他の 世帯	(再掲)
							高齢者世帯
総数	[100.0]	[24.0]	[32.7]	[20.2]	[23.1]	[20.1]	[45.8]
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
要支援者のいる世帯	26.0	39.1	22.3	22.8	22.1	20.8	30.8
要支援1	12.9	22.3	10.4	10.9	9.0	10.0	16.4
要支援2	13.1	16.8	11.9	11.9	13.1	10.7	14.4
要介護者のいる世帯	70.3	56.8	73.0	73.3	74.4	77.2	65.6
経過的要介護	1.5	1.8	1.6	2.3	1.1	1.3	1.9
要介護1	17.5	20.3	16.0	16.8	16.9	17.3	18.4
要介護2	18.3	15.4	20.8	20.1	17.4	18.9	18.0
要介護3	15.1	12.0	15.4	16.1	18.2	14.6	13.7
要介護4	10.2	5.1	10.4	9.5	12.4	13.7	7.9
要介護5	7.7	2.2	8.9	8.5	8.4	11.3	5.7

注：1) 「総数」には、要介護度不詳を含む。

2) 世帯に複数の要介護者等がいる場合は、要介護の程度が高い者のいる世帯に計上した。

2 要介護者等の状況

要介護者等を年齢階級別にみると、「80～84歳」が23.2%で最も多く、次いで「85～89歳」が21.6%となっている。

性別にみると、男34.0%、女66.0%と女が多くなっている。（表21）

表21 性・年齢階級別にみた要介護者等の構成割合

（単位：％）

平成19年

性	総数	40～64歳	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90歳以上	(再掲)	
									65歳以上	
総数	[100.0]	100.0	5.2	5.4	10.5	17.8	23.2	21.6	16.3	94.8
男	[34.0]	100.0	7.5	8.1	14.0	20.0	22.8	16.2	11.4	92.4
女	[66.0]	100.0	4.0	4.0	8.6	16.7	23.4	24.3	18.9	96.0

注：「総数」には、要介護者等の年齢不詳を含む。

介護が必要となった主な原因をみると、要支援者では「関節疾患」が20.4%、「高齢による衰弱」が16.5%の順となっている。要介護者では「脳血管疾患（脳卒中）」が27.4%、「認知症」が18.7%の順となっている。（表22）

表22 要介護度別にみた介護が必要となった主な原因の構成割合

(単位：%) 平成19年

要介護度	総数	脳血管疾患(脳卒中)	認知症	高齢による衰弱	関節疾患	骨折・転倒	心疾患(心臓病)	パーキンソン病	糖尿病	骨髄損傷	呼吸器疾患	悪性新生物(がん)	異常・聴覚障害	その他	不明	不詳
総数	100.0	23.3	14.0	13.6	12.2	9.1	4.3	2.8	2.7	2.5	2.1	1.8	1.5	6.1	1.2	2.5
要支援者	100.0	14.8	3.2	16.5	20.4	12.6	7.4	2.3	2.6	2.8	1.9	1.9	2.5	7.2	2.1	1.9
要支援1	100.0	12.3	2.6	16.0	18.2	13.0	8.2	2.6	2.8	2.4	1.9	1.5	3.3	10.3	2.7	2.2
要支援2	100.0	17.4	3.8	17.1	22.6	12.2	6.6	2.1	2.3	3.2	1.9	2.2	1.8	3.9	1.5	1.5
要介護者	100.0	27.4	18.7	12.5	9.2	8.4	3.1	3.1	2.8	2.4	2.3	1.8	1.1	5.3	0.9	1.0
経過的要介護	100.0	13.5	4.6	19.1	25.0	1.0	9.7	-	2.2	2.1	3.3	4.6	3.2	6.7	5.5	2.6
要介護1	100.0	21.4	16.1	16.6	14.3	8.1	2.8	1.9	3.5	1.0	3.0	1.8	1.7	5.1	1.3	1.5
要介護2	100.0	26.3	18.1	12.8	10.6	7.7	3.6	2.4	3.3	2.8	1.5	0.9	1.5	6.1	1.3	1.0
要介護3	100.0	27.2	25.1	9.4	5.1	9.5	3.1	1.8	2.1	2.6	2.5	1.4	0.9	5.1	0.3	0.6
要介護4	100.0	36.3	17.8	9.6	4.7	12.9	1.5	3.3	1.5	2.1	1.2	4.0	0.2	4.4	0.1	0.3
要介護5	100.0	35.4	18.1	10.5	4.1	4.3	2.9	4.9	3.1	5.2	3.3	1.5	-	5.0	0.2	1.5

注：「総数」には、要介護度不詳を含む。

3 主な介護者の状況

主な介護者と要介護者等との続柄をみると、要介護者等と同居している家族等介護者が60.0%、別居している家族等介護者が10.7%、事業者は12.0%となっている。

同居している主な介護者の続柄をみると、「配偶者」25.0%、「子」17.9%、「子の配偶者」14.3%となっている。

また、同居している主な介護者を性別にみると、男28.1%、女71.9%と女が多くなっている。年齢階級別にみると、男女ともに「50～59歳」が25.2%、31.7%と多くなっている。

(図22)

図22 主な介護者と要介護者等との続柄及び同別居の構成割合

